

Children's Rainbow Center Newsletter

Rainbow Times

このたびの東日本大震災により亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げ、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧と、被災された地域の方々の健康を心よりお祈り申し上げます。

特別研修「被災を経験した子どもへの支援」を開催します！

虹センターでは、この度の東日本大震災を受け、3つの講演からなる特別研修を開催することと致しました。初めに、清水将之先生から、家庭や家族を喪った子どもへのケアについて、続いて大島剛先生から、阪神・淡路大震災の当時と現在の状況について、最後に星野崇啓先生から、被災を経験した社会的養護児童への支援についてお話を頂きます。研修を通して、被災した子どもや家族に対する支援のあり方について、神戸の体験をもとに理解を深め、今後の対応の一助にして頂ければ幸いです。

日 時：平成 23 年 6 月 1 日(水) 9：30 受付開始 10：00 開会 会 場：虹センター 大研修室(2 階)
10：15～12：00 講 演：家庭や家族を喪った子どもへのケアについて
講 師：清水 将之 先生(三重県特別顧問(こども局))(児童精神科医、医学博士。名古屋市立大学医学部精神科助教授、三重県立こども心療センターあすなろ学園園長、関西国際大学大学院教授などを務められ、子どもや家族の臨床に長く携わってこられる)
13：00～14：45 講 演：阪神・淡路大震災を振り返って
講 師：大島 剛 先生(神戸親和女子大学)(児童相談所心理判定員、神戸親和女子大学助教授を経て、2007 年より現職。阪神・淡路大震災当時は、神戸市児童相談所職員として、被災した子どもや家族の支援にあたられる)

15：00～16：45 講 演：被災を経験した社会的養護児童への支援
- 『社会的養護における災害時「子どもの心のケア」手引き』をもとに -
講 師：星野 崇啓 先生(国立武蔵野学院)(小児精神科医。埼玉小児医療センター医師を経て、2011 年度より現職。編集・執筆者の一人として『社会的養護における災害時「子どもの心のケア」手引き』を作成)

参加費：無料

申し込み方法：センターHPより申込書をダウンロードし、FAX または郵送でお申し込みください。 (南山)

被災者支援に関する情報の紹介

震災を受け、様々な支援マニュアルや手引き、心得などが出ています。どのような立場で関わっているかによっても使用するツールは異なりますが、ここでは、主だって使用されている手引きを2つ紹介します。

Gerald A. Jacobs氏(国際赤十字・赤新月社連盟)の7つの基本方針 災害時の専門家らの心理支援の研究者であり、赤十字の災害時心理支援に携わった、地域/臨床心理学博士の Jacobs 氏は、人間性心理学(人間を全体的に捉え、肯定的側面を強調するアプローチ)の観点から、**災害時の心理支援における7つの基本方針**を挙げています。

害を与えないこと：専門家の介入は被災者に脅威にならないように。コミュニティに根ざしていること：その集団(地域、年齢、経済、宗教)のニーズに沿った支援であること。持続可能であること：コミュニティに役立ち、継続に無理のない支援プログラムであること。コミュニティの持てる力の上に成り立つものであること：コミュニティの文化を生かした支援により、自分たちが活動の主体である感覚が高まる。現地の専門家を活用すること：現地の専門家でなければ、持続的な支援も、コミュニティに根ざした支援もできない。まず「異常な状況に対する正常な反応」への対応：心理支援は、精神疾患への対応では無く、困難に直面している人びとを支えることに重点をおくこと。被災したすべての人を対象とすること：対象を絞る方が現実的との声もあるが、最小の目標を設定することは適切な態度ではない。

参考：明石加代ら 2010 災害後精神保健活動の望ましいあり方とは 心的トラウマ研究,6,87-96.

サイコロジカル・ファーストエイド(PFA)(心の応急処置) 現在災害後のケアは、被災後しばらくして発症する PTSD の治療に焦点を置くのではなく、被災後早期(被災直後から数週間)に回復力を高めるための応急処置が推奨されています。「治療」ではなく、現実的な困難を乗り越える「サポート」を目的としています。アメリカ国立 PTSD センターは、同時多発テロ 9.11 事件を受け、分野を超えて使用できるように“PFA 実施の手引き”(日本語版あり)を作成しました。支援活動現場で使える言葉かけの例や、どの機関につなげれば良いかなど、具体的な方法が載っています。**PFA の 8 つの活動内容と目的**は：

被災者に近づき、活動を始める：被災者の求めに応じる、手をさしのべる。安定と安心感：当面の安全を確かなものにする。安定化：被災者の混乱を沈め、見通しが持てるようにする。情報を集める：被災者が今困っていることを把握する。現実的な問題解決を助ける：被災者を現実的に支援する。周囲の人々との関わりを促進する：支えてくれる人や機関との関わり、そしてその維持を援助する。対処に役立つ情報：ストレス反応とその対処を知ってもらう。紹介と引き継ぎ：被災者が今必要としている、また将来必要となるサービスを紹介する。(山辺)

<http://www.j-hits.org/psychological/index.html> (兵庫県こころのケアセンターHPより)



企画・編集室(担当：南山)お気づきの点は下記まで...

〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町 9 8 3 番地 子どもの虹情報研修センター

TEL 045-871-8011 FAX 045-871-8091 Email info@crc-japan.net